

審査の結果の要旨

氏名森島 遼

本研究は、東日本大震災の被災地における応急仮設住宅およびみなし仮設住宅居住と後の精神的不健康の関係における睡眠障害やソーシャルサポートの媒介効果を検証するために行われた。2014年(T1)から2016年(T3)の間に被災地の特定健康診査で実施された調査票の回答から、居住状況(e.g., 応急仮設住宅、みなし仮設住宅)、精神的不健康、睡眠障害、ソーシャルサポート、その他の共変数のデータが解析対象とされた。仮設住宅居住と精神的不健康の関係における睡眠障害やソーシャルサポートの媒介効果の評価は、3時点データを用いた交差遅延効果モデル(CLPM)で実施された。これにより、下記の結果を得ている。

1. 主解析である CLPM における媒介分析の結果、応急仮設住宅およびみなし仮設住宅 (T1)の精神的不健康(T3)への直接効果は有意であった。一方、睡眠障害やソーシャルサポート(T2)による間接効果は有意でなかった。
2. T1 から T3 の時点間における睡眠障害と精神的不健康は、双方向的に関係していた。また、精神的不健康は、後のソーシャルサポートを減少させたが、ソーシャルサポートは後の精神的不健康と関係しなかった。さらに、T1 で応急仮設住宅およびみなし仮設住宅に住んでいることは、T2 の精神的不健康とは関係なかったが、T3 の精神的不健康を予測した。
3. 重回帰分析等を用いた追加解析において、主解析の結果が支持され、結果の頑健性が確認された。

以上、本論文は仮設住宅居住と後の精神的不健康の関係における睡眠障害とソーシャルサポートの媒介効果を検討した最初の研究である。応急仮設住宅やみなし仮設住宅に住む被災者へのメンタルヘルスに関する長期的支援が必要な可能性を示したことから、被災地の精神保健活動に重要な知見を提供するものである。

よって本論文は博士（医学）の学位請求論文として合格と認められる。